

国東を 元気にする人

武蔵活性化委員会には15人ほどのメンバーがおり、主な活動として、旧武蔵東小のグラウンドで「武蔵楽交」というイベントを定期開催しています。会の結成のきっかけは、2年前の武蔵東小と武蔵西小の閉校でした。閉校は、地域住民にとってはとてもさみしい出来事です。だから、「閉校となった学校で、地域を元気付けるイベントができないか」と有志で集まって会を立ち上げ、武蔵楽交を企画しました。「武蔵の学校でみんな楽しく交わろう」。武蔵楽交の名称にはそうした思いが込められています。

多彩なお店が立ち並び、いろいろな体験が楽しめ、ダンスや演劇などの舞台になる——。武蔵楽交は、コロナ禍で出店や発表の場を失った方々と協力しながら、地域をにぎやかにしようと開催を重ねてきました。来場者、出店者、発表者、そしてスタッフのみんなの笑顔を見ていると、「武蔵楽交をやってよかった」という、うれしい気持ちが湧いてきますね。



3月13日に開催された第8回目の武蔵楽交のテーマは「宇宙」。モデルロケットの発射体験や「宇宙」にちなんだダンスの発表が行われました。



小学校の閉校を機に会を結成
「武蔵楽交」で地域を笑顔に

武蔵活性化委員会 代表

矢野 誠治 さん（武蔵町古市）

私の宝物★

こうだい
松原 滉大 くん
(10か月)

しより
梓和 ちゃん (2歳7か月)

母 有沙 さん
武蔵町向陽台



いつもニコニコ笑顔の滉大くん
お姉ちゃんと仲良く、優しく元気に育ってね（母）

私の達人な秘訣



あさのり
小田 朝則 さん(95歳)
国東町富来浦

60歳くらいまでタコや
タチウオの漁師をしていま
した。私は「毎日しっかり運動
する」ことを心掛けています。
季節の野菜を育てることが
趣味で、今年も大根と白菜が
よくできました。



お誕生おめでとう（敬称略）（ ）内は保護者の名前／2月16日～3月15日までの届出分

2月

15日 武蔵町系原 宮 川 ましろ 白（和成・唯）
16日 国東町鶴川 森 園 ここみ 結（隼吾・聡美）

3月

6日 国見町櫛海 唯 有 陽 心（敬心・千華）



お悔やみ申し上げます（敬称略）2月16日～3月15日までの届出分

2月

15日 国東町田深 宮 崎 信 光 (86)
国東町川原 清 原 高 義 (85)
16日 武蔵町系原 古 林 孝 (90)
17日 国東町鶴川 高 木 澄 子 (88)
18日 武蔵町丸小野 中 野 智 (74)
22日 国東町浜 山 本 義 光 (89)
25日 国見町岐部 上 園 正 夫 (86)
国東町綱井 山 本 政 勝 (77)
26日 国東町浜 中 田 信 義 (88)
安岐町掛樋 浅 井 和 子 (89)
28日 武蔵町内田 巴 田 末 男 (81)
安岐町下原 安 部 義 一 (74)
安岐町塩屋 杉 本 千 年 (93)

3月

1日 国東町浜 國 廣 幸 男 (87)
安岐町山浦 今 村 廣 志 (94)
2日 国東町重藤 岸 本 菊 子 (92)
3日 国東町田深 末 松 幹 哲 (50)
安岐町矢川 重 光 久 (81)

4日 国見町赤根 安 藤 ラソノ (99)
5日 国東町小原 一 丸 皓 (89)
6日 国見町岐部 坂 木 美枝子 (95)
安岐町両子 田 邊 サエ子 (95)
安岐町瀬戸田 宮 田 ヨネ子 (96)
7日 安岐町山浦 一 丸 ヨシ子 (90)
8日 国見町大熊毛 田 北 典 彦 (88)
武蔵町系原 山 下 象三郎 (82)
安岐町富清 水 元 トミエ (87)
9日 国見町岐部 橋 本 良 成 (90)
10日 国見町向田 池 本 武 彦 (94)
11日 武蔵町小城 桝 永 和 子 (73)
12日 国東町浜 藏 本 太 (98)
国東町鶴川 市 原 正 利 (75)
安岐町馬場 高 木 忠 巳 (91)
13日 国見町伊美 野 田 恭 二 (79)
国東町岩屋 栗 林 正 (86)
14日 国東町小原 松 本 利 夫 (99)
安岐町油留木 渡 邊 波 子 (91)
安岐町馬場 麻 生 榮一郎 (86)

※掲載希望の申し出のあった方を掲載しています。

ひとの うごき

人口 26,490(−14)人 男 12,733(−12)人 女 13,757(−2)人 世帯数 12,980(+8)世帯
主な異動理由 転入73人 転出58人 出生9人 死亡38人 ()内は前月比 2月28日現在

編集後記

市報担当も4年目になりました。私はこれまで一つの部署に3年を超えて所属していたことがないので、初めての4年目になります。市報担当は市内で起きていることを幅広く知ることができますし、たくさんのお会いもあり、やりがいを感じています。今年度も皆さまに愛される市報づくりを心掛けまので、どうぞよろしくお願いいたします。（矢野）

◆今月号の表紙

～青春の思い出は、心の中で生き続ける～



生徒代表の言葉を述べました。最高の3年間をありがとう、双国校——。13名の卒業生は、数々の思い出が詰まった教室に別れを告げ、双国校生としての誇りを持って、それぞれの未来に旅立ちます。